

感動を生む。想いをつなぐ。
The Entertain**media** Company

J:COM

2012年12月期 第2四半期決算説明会

2012年7月24日

株式会社ジュピターテレコム

将来見通しに関する注記事項

このプレゼンテーションに記載された当社の財務情報は、米国会計基準に基づき計算されたものであります。

このプレゼンテーションには、当社の計画と見通しを反映した将来予想に関する記述を含んでおります。かかる将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否等、不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績はこのプレゼンテーションに記載されている将来予想に関する記述とは大きく異なる場合があることをご承知おきください。

また当社は、このプレゼンテーション後において、かかる将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

1

第2四半期業績解説

2

下期の取り組み

参考資料

1. 連結業績ハイライト (財務諸表)

J:COM

[米国会計基準]

- ・アナログ電障関連収入の減少が主要因で減益
- ・通期予想に対しては概ね計画通りの進捗

(億円)

	2011年 1-6月	2012年 1-6月	前年 同期比	2012年 1-3月	2012年 4-6月	前四半期 比	2011年 実績	2012年 予想	増減率	進捗率
営業収益	1,840	1,865	1.4%	925	940	1.6%	3,691	3,780	2.4%	49%
営業利益	400	343	△14.2%	185	158	△14.6%	711	735	3.4%	47%
税金等 控除前利益	384	339	△11.9%	187	152	△18.9%	685	710	3.6%	48%
当社株主帰属 四半期純利益	205	184	△10.0%	100	84	△16.1%	373	390	4.6%	47%
EBITDA*	814	752	△7.7%	389	363	△6.5%	1,564		2~3%	

*EBITDA = (営業収益) - (番組・その他営業費用) - (販売費および一般管理費)

1. 連結業績ハイライト(主要オペレーション指標)

・ 各種営業施策も奏功し、お客様基盤は順調に拡大

	2011年6月末 (2011年1-6月平均)	2012年6月末 (2012年1-6月平均)	増減
加入世帯数			
ケーブルテレビ	295 万	310 万	5.2 %
高速インターネット接続	174 万	190 万	9.5 %
電話	209 万	236 万	13.2 %
RGU合計 *1	677 万	736 万	8.8 %
総加入世帯数	348 万	369 万	5.9 %
バンドル率 *2	1.94	2.00	0.06
平均月次解約率 (RGU当たり)	1.04%	1.00%	-0.04Pts
ARPU *3	7,646 円	7,377 円	-269 円

*1: RGU (Revenue generating unit)合計 = 提供サービス数の合計

*2: バンドル率 = 加入世帯当たり提供サービス数

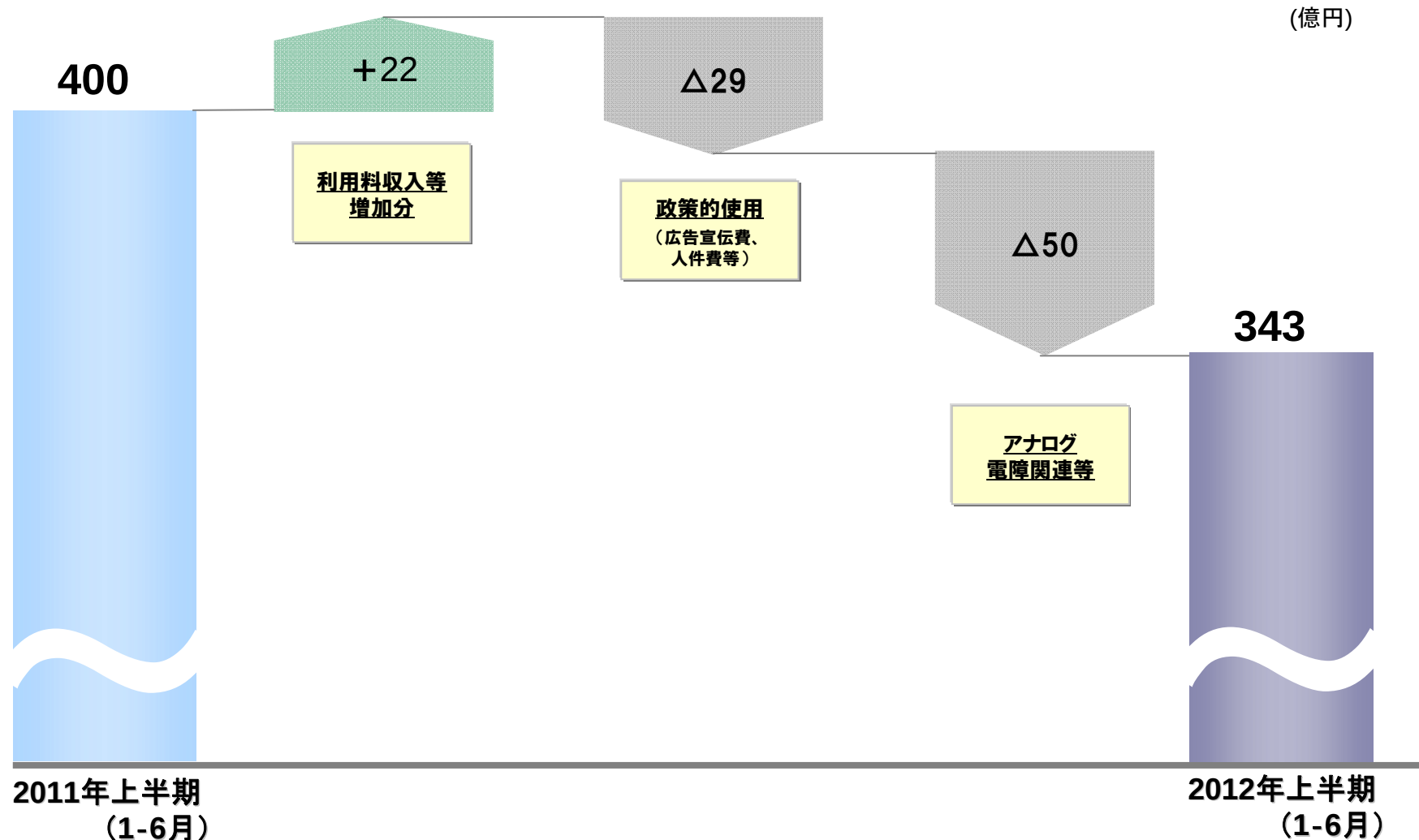
*3: ARPU = 加入世帯当たり月次収益

1-1. 営業利益の主な増減要因 (前年同期比較)

J:COM

[米国会計基準]

減少要因の大半はアナログ電障収入の減収インパクト

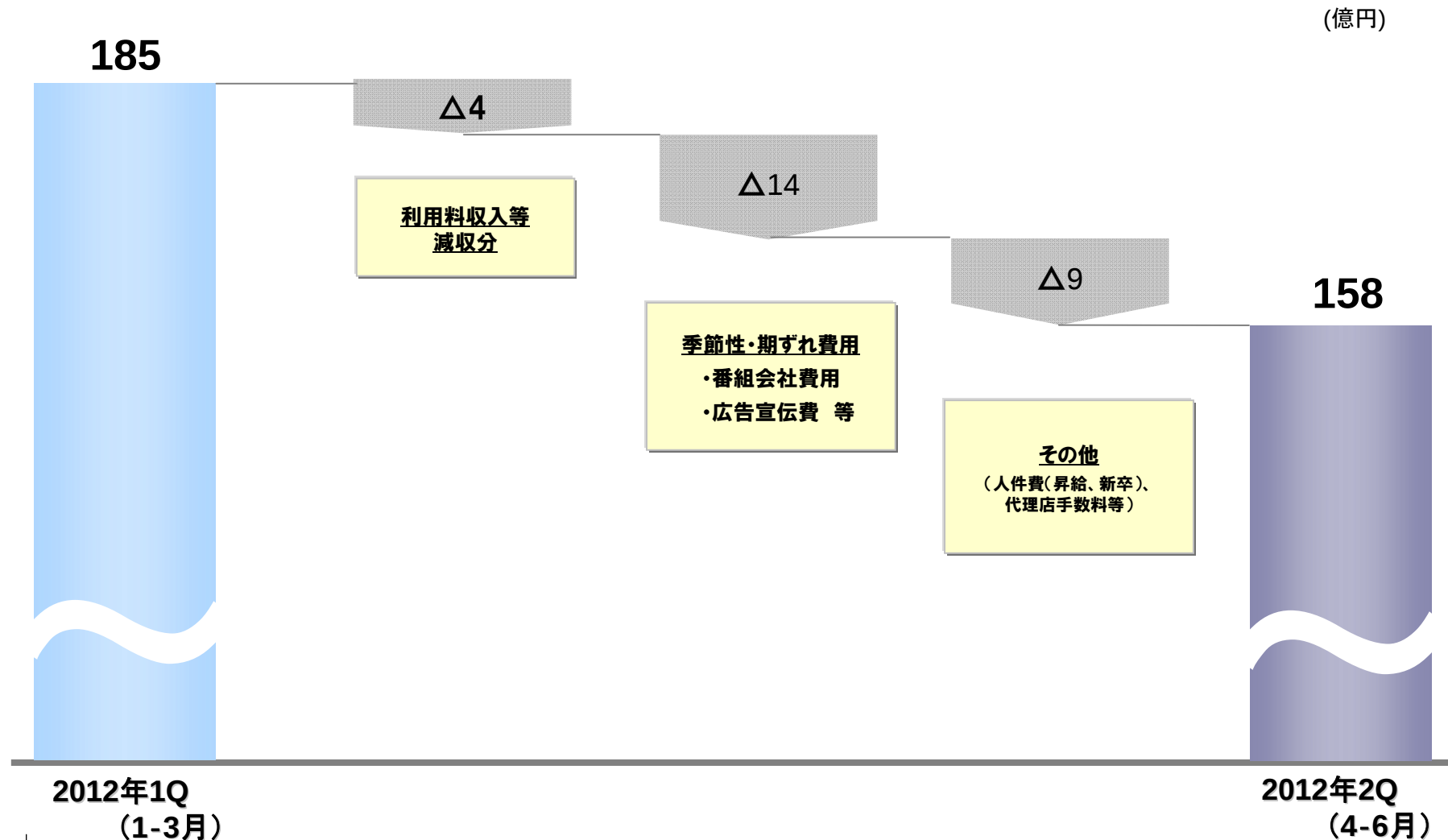


1-1. 営業利益の主な増減要因 (四半期比較)

J:COM

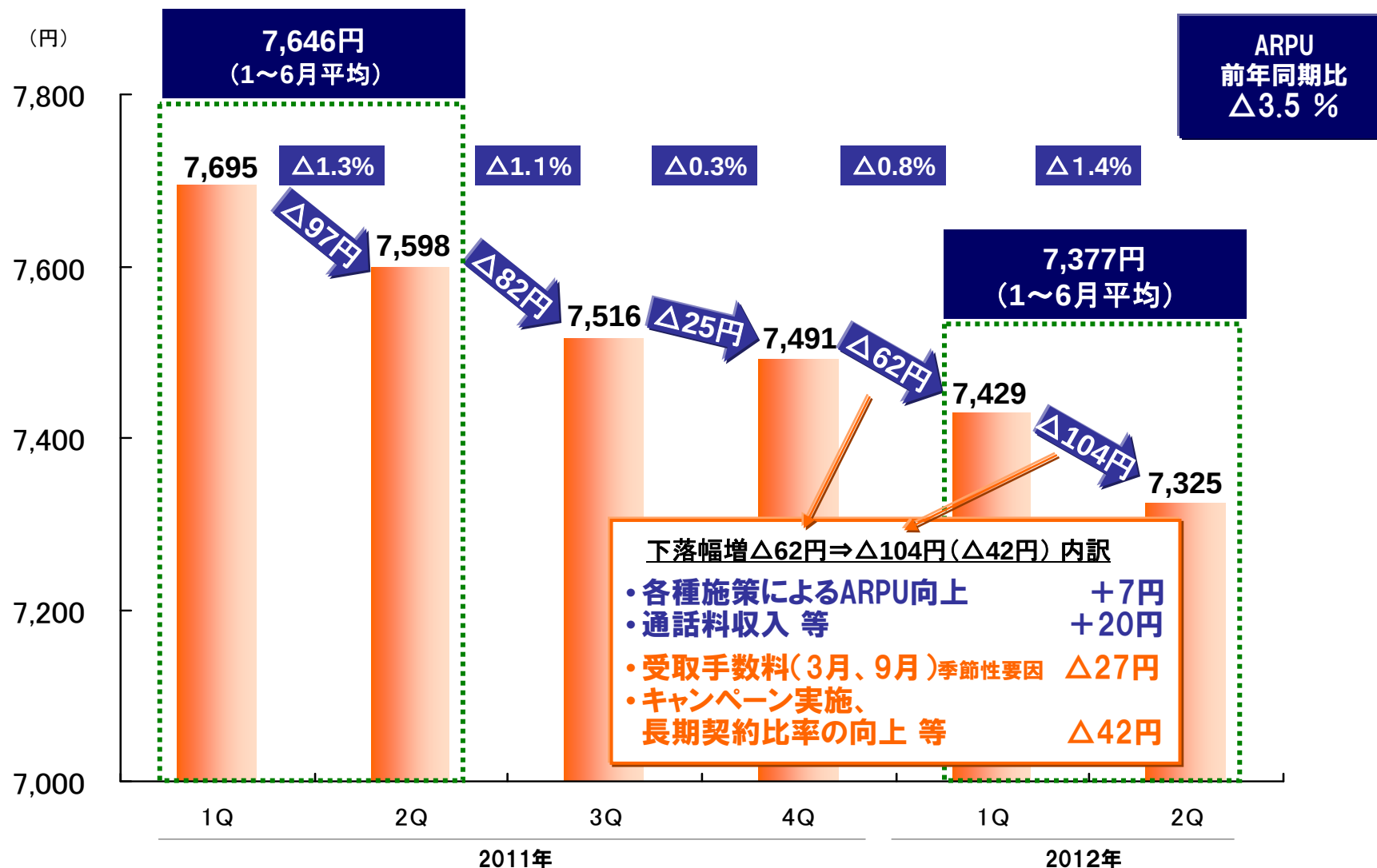
[米国会計基準]

利用料収入の減少に加え、季節性による番組費増や広告宣伝費の期ずれ等により減益



1-2. 主要オペレーション指標(ARPU*)

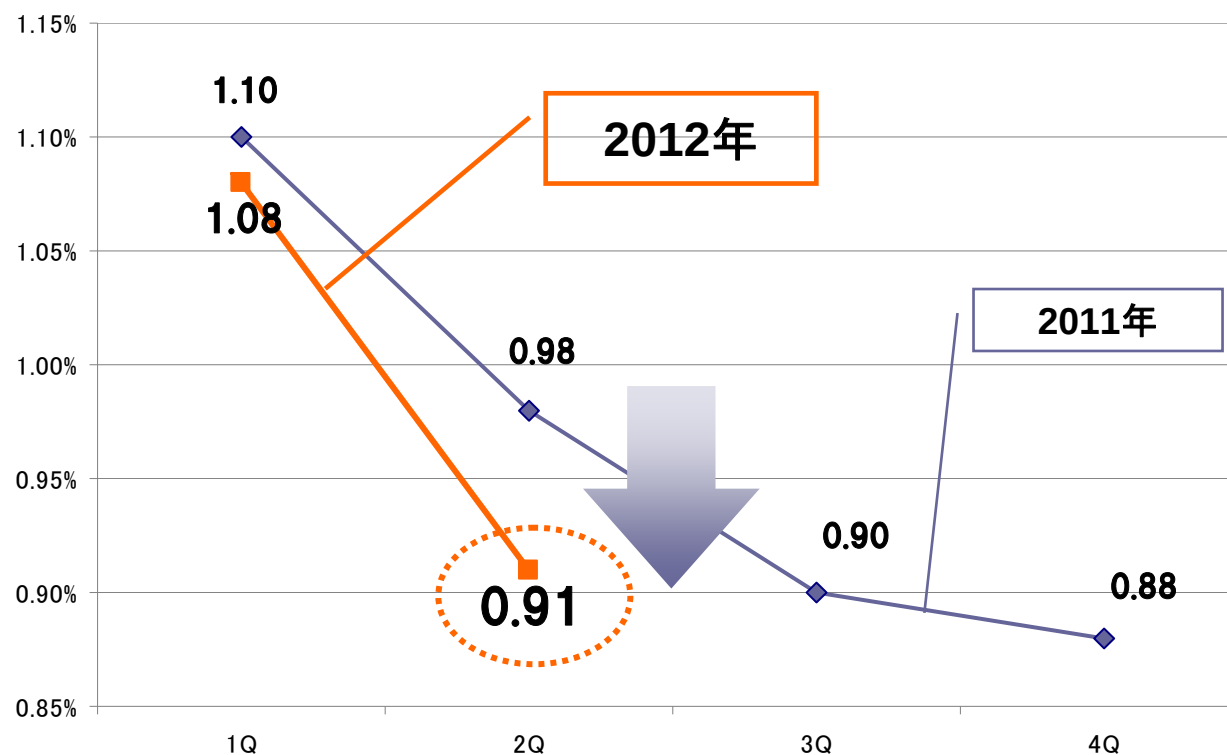
キャンペーン、長期契約等の営業政策の推進により下落幅が一時的に拡大



1-2. 主要オペレーション指標(解約率)

CS推進活動も奏功し、解約率はさらに改善

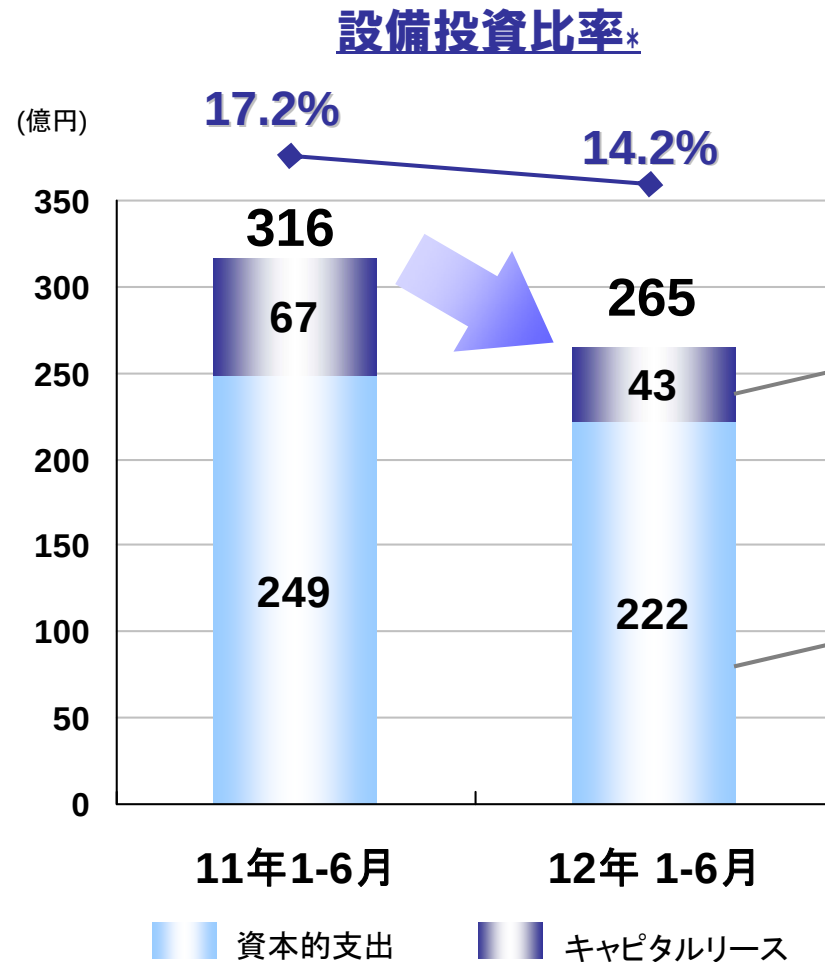
平均月次解約率(RGUあたり)*



*平均月次解約率=(当該期間における解約サービス数合計)÷(当該期間の加重平均RGU数)÷(当該月数)

1-3. 設備投資

設備投資比率は低下



主な増減要因

- **キャピタルリース (-24億円)**
 - J:COM PHONEプラス用センター系設備の初期導入投資が減少
- **資本的支出 (-27億円)**
 - 昨年実施の延伸(秦野・伊勢原)に伴う、幹線分配線の減少
 - 電障関連投資等の減少

*設備投資比率: 営業収益に対する設備投資額の比率

1-4. 主な成果

ケーブルTV事業

- KDDIクロスセルプロモーションの継続伸長
- auスマートバリューをフックとした加入拡大
- 高ARPU商品の積極拡販
- 新サービスの投入（Xvie, メガパック）

メディア事業

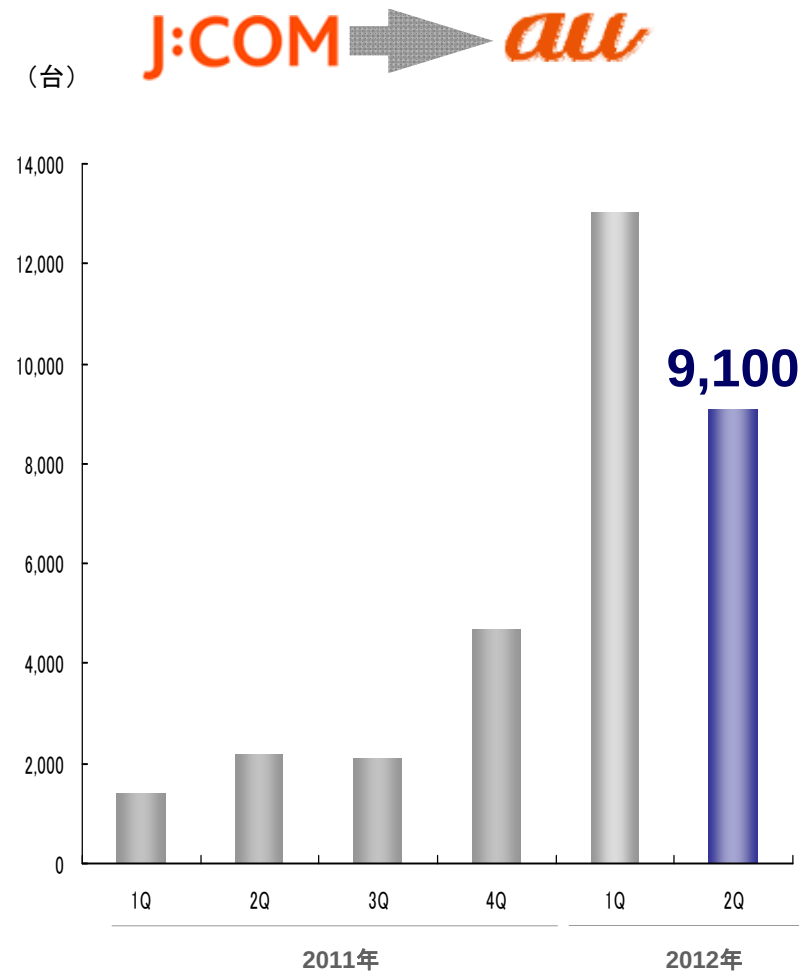
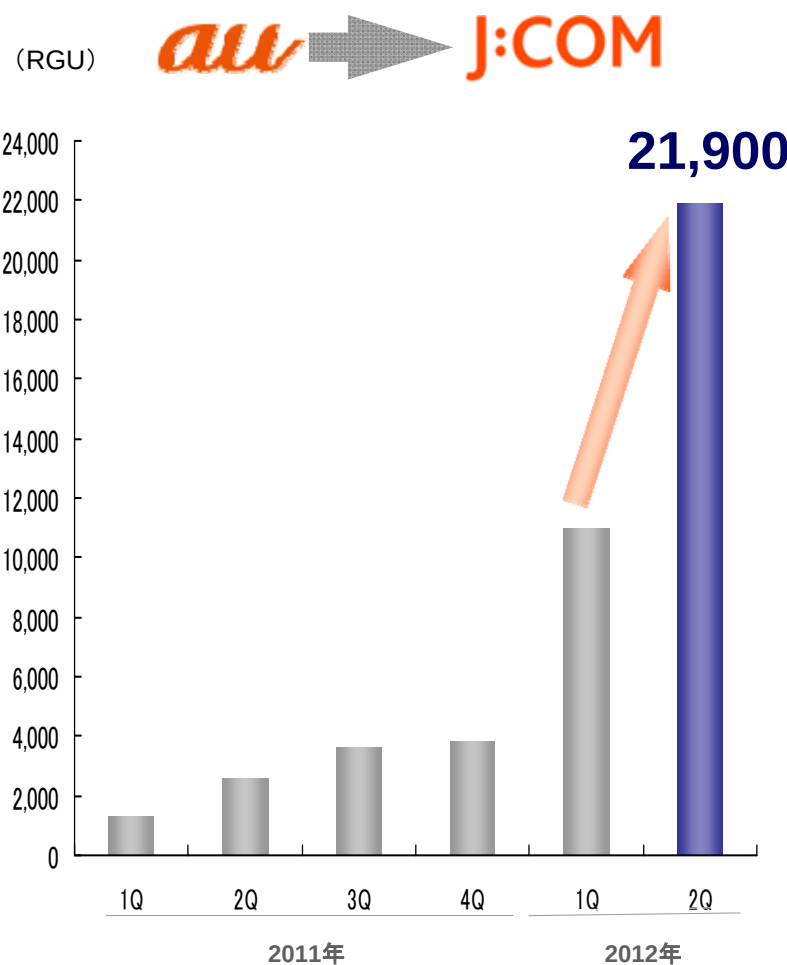
- オリジナルドラマの企画・製作
（アスミック・エース エンタテインメント）
- チャンネル統合による番組の強化促進
（ゴルフネットワーク）

ブランディング 強化

- 東京スカイツリータウンへの出店
「J:COM Wonder Studio」 オープン

1-4-1. KDDIクロスセルプロモーションの継続伸長 J:COM

第1四半期に続き、J:COM勧奨は好調に推移



1-4-2. auスマートバリューをフックとした加入拡大

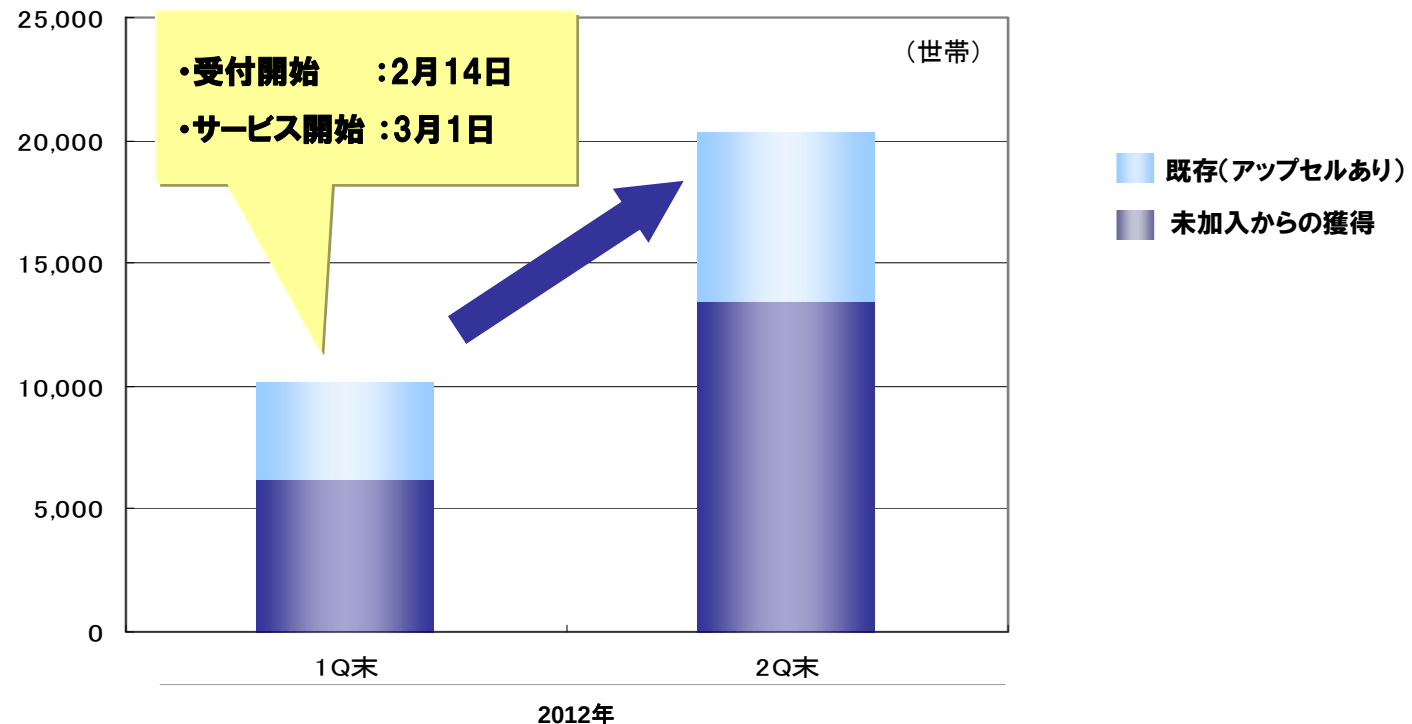
新規獲得RGUのうち1割超がスマートバリューによる獲得

30,500世帯 / 64,900RGU (6月末累計)

・未加入からの獲得 :19,700世帯 / 49,500RGU

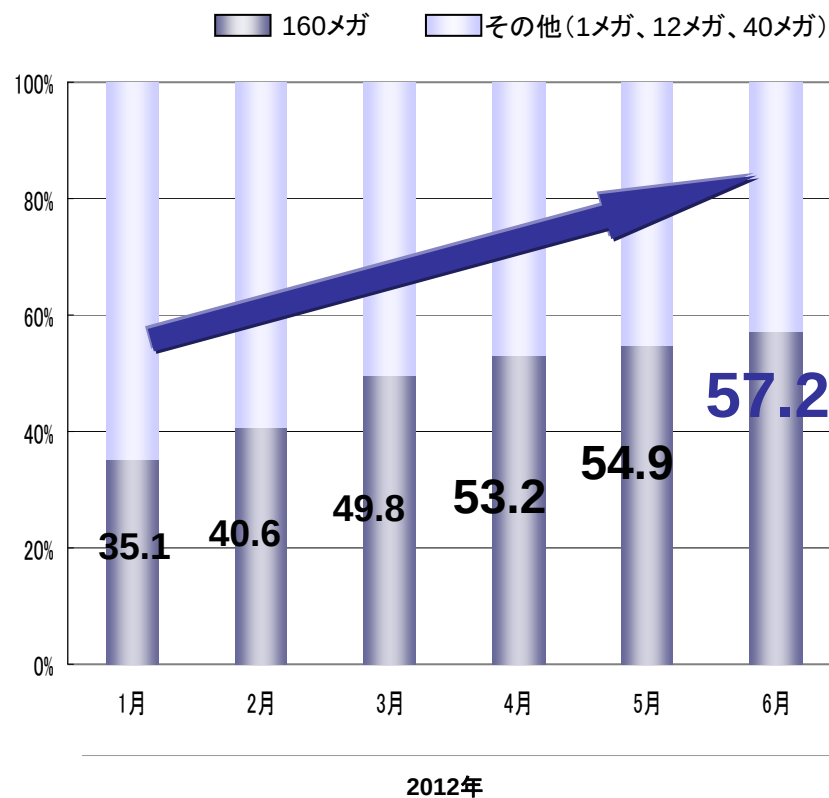
・既存顧客(アップセル) :10,800世帯 / 15,400RGU

バンドル率 **2.51**

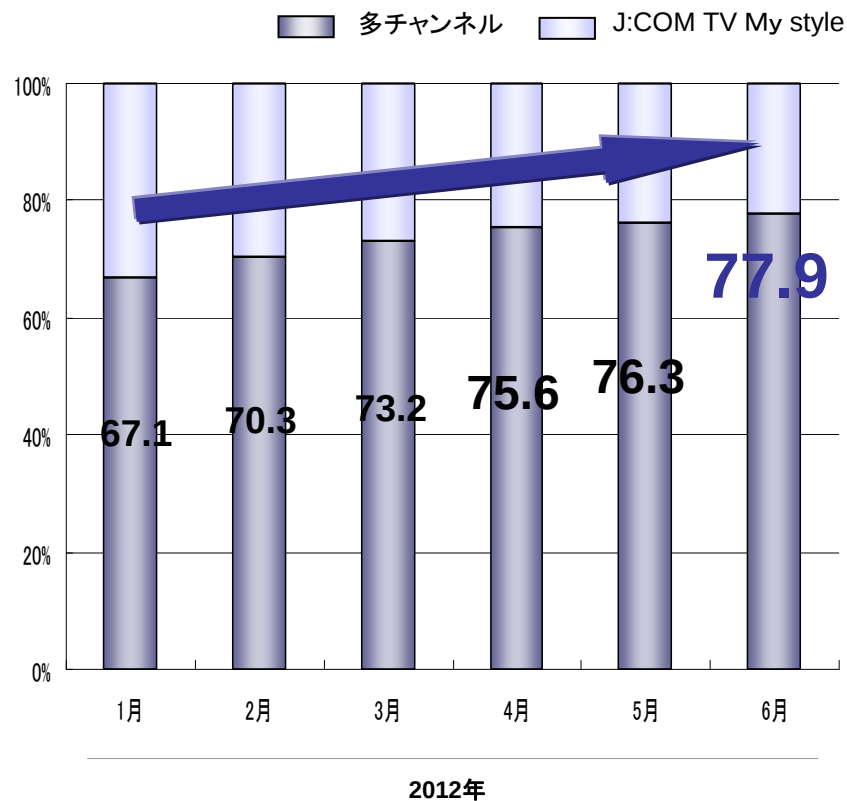


1-4-3. 高ARPU商品の積極拡販

160メガ超高速インターネット 新規獲得比率



多チャンネル新規獲得比率*



*多チャンネルサービス:JCOM TV My style及びBS再送信を除く
ケーブルテレビサービス

1-4-4. 新サービスの投入

TV Everywhere型サービス



5月22日～

スマートフォンやタブレット端末、パソコンでも
VODが楽しめる「Xvie(クロスヴィ)」サービス



スマートフォン トップ画面

- 映画やドラマ、アニメなどのVOD作品を
3,600本以上ラインナップ
(年末には8,000本まで拡充を計画)
- VODコンテンツを、スマートフォン、
タブレット端末、パソコンで宅内でも
宅外でも視聴が可能。
- さらに、番組の続きを別の端末で
視聴することも可能。

新たな見放題VODパック



6月1日～

対象作品3,000本以上が
月額利用料金980円(税込)で見放題

様々なジャンルを総合編成

洋画



「スパイダーマン」(C)

MOTION PICTURE (C)2002 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC.
SPIDER-MAN CHARACTER TM AND (C)2002 MARVEL CHARACTERS, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

ドラマ



アニメ

邦画



(C) 2008『ハンサム★スーツ』製作委員会



© Jupiter Telecommunications Co., Ltd.

1-4-5. オリジナルドラマの企画・製作

初の3社共同オリジナルドラマ製作 東野圭吾ドラマシリーズ “笑”



最強のカードで配信ドラマに革命を

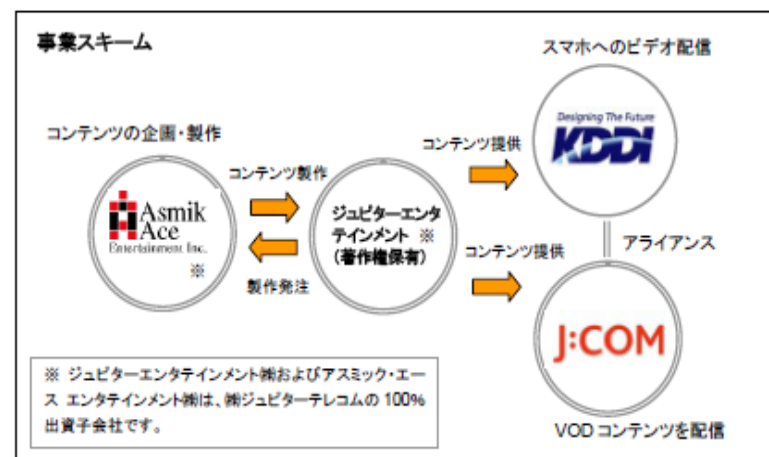
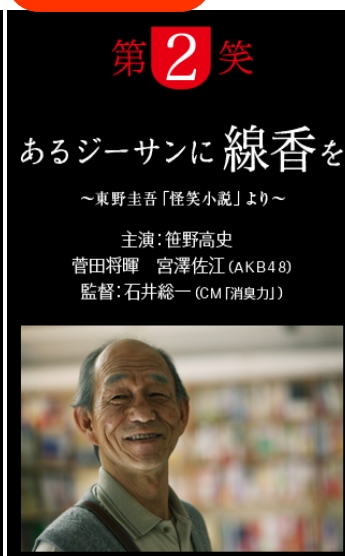
- ・ 東野圭吾の「笑い」をテーマにした短編集から3つをセレクトしドラマ化
- ・ 豪華キャスト・スタッフが結集して作り上げたオリジナルドラマ



第1笑:8月

第2笑:9月

第3笑:10月



(C)東野圭吾／集英社・KDDI・ジュピターエンタテインメント

視聴覚障がい者向けの日本語字幕＆音声ガイド付

1-4-6. チャンネル統合による番組の強化促進

J:COM

チャンネルの統合推進



米国のゴルフチャンネルより、
2012年4月以降の放映権獲得

日本で唯一のゴルフ専門チャンネルへ

米国、欧州、日本の主要トーナメント網羅
独自中継も充実させ、編成を強化

主な取組みの効果

優良コンテンツの確保

- ・ 男子ヨーロッパツアー
- ・ 米LPGAツアー(10試合)
- ・ ゴルフセントラル(ニュース番組)
- ・ ライダーカップ(ヨーロッパ開催のみ)
- ・ レッスン番組3タイトル

視聴可能世帯数の増加

2012年3月末 723万世帯
2012年4月末 約800万世帯

売上・視聴率の増加

- ・ 番組販売売上の増加
- ・ 4月以降、J:COMでの視聴率が前年を上回る

1-4-7. J:COM Wonder Studio～東京スカイツリータウン®にオープン～ **J:COM**

コンセプト

先進的でわくわくする、これまでにない場所



日本最大級モニター

**103インチTVモニターを
4台使用した
映像イベントを毎日実施**

日本初のバーチャル体験システム



Xvie体感マシン

日本初の先進映像システム



シースルーディスプレイ

**コミュニティチャンネル「つながるGO!GO!」
スカイツリーより生中継**

**平日毎日5分～10分程度
「J:COM Wonder Studio」から生中継**

オープンから1ヶ月で来場者数10万人を突破。(7月22日時点:17万人)

1

第2四半期業績解説

2

下期の取り組み

参考資料

2. 2012年度 下期の取り組み

ケーブルTV事業

- ARPUトレンドの改善
- 収益基盤の拡大
 - ・新商品の投入、クロスセル・スマートバリューの継続推進
 - ・Wi-Fiアクセスポイントの構築
 - ・新テレビ商品・スマートバリューをフックとしたネット商品の拡販

メディア事業

- 韓国SBSグループ企業との資本提携
- 話題作・人気コンテンツの投入

新規事業

- 第4四半期以降に順次開始予定

コスト削減の取り組み

- コスト削減プロジェクトの更なる強化
- 下期費用計画の見直し等

2-1. ARPUトレンドの改善に向けた取り組み

新商品の投入

➤ 未開拓ターゲット層に焦点をあてた
新テレビ商品

- シニア夫婦、若年単身層を主なターゲット
- My styleに比してARPUを改善
- My style・コンパクトの売り止め

ネット軸商品の強化

➤ ホームネットワークサービスの開始

- ネット周辺機器・宅内デジタル端末環境設定
- 月額課金ベースサービスを検討中

既存収益源の最大化

- メガパック(VOD見放題パック)の最大活用
- ブルーレイHDRの契約獲得強化
- プレミアムチャンネル獲得強化

上記に加え、多チャンネル獲得キャンペーン・ARPU管理を更に強化

2-2. 収益基盤の拡大:

Wi-Fi向けアクセスポイント構築・運用に関するKDDIとの連携

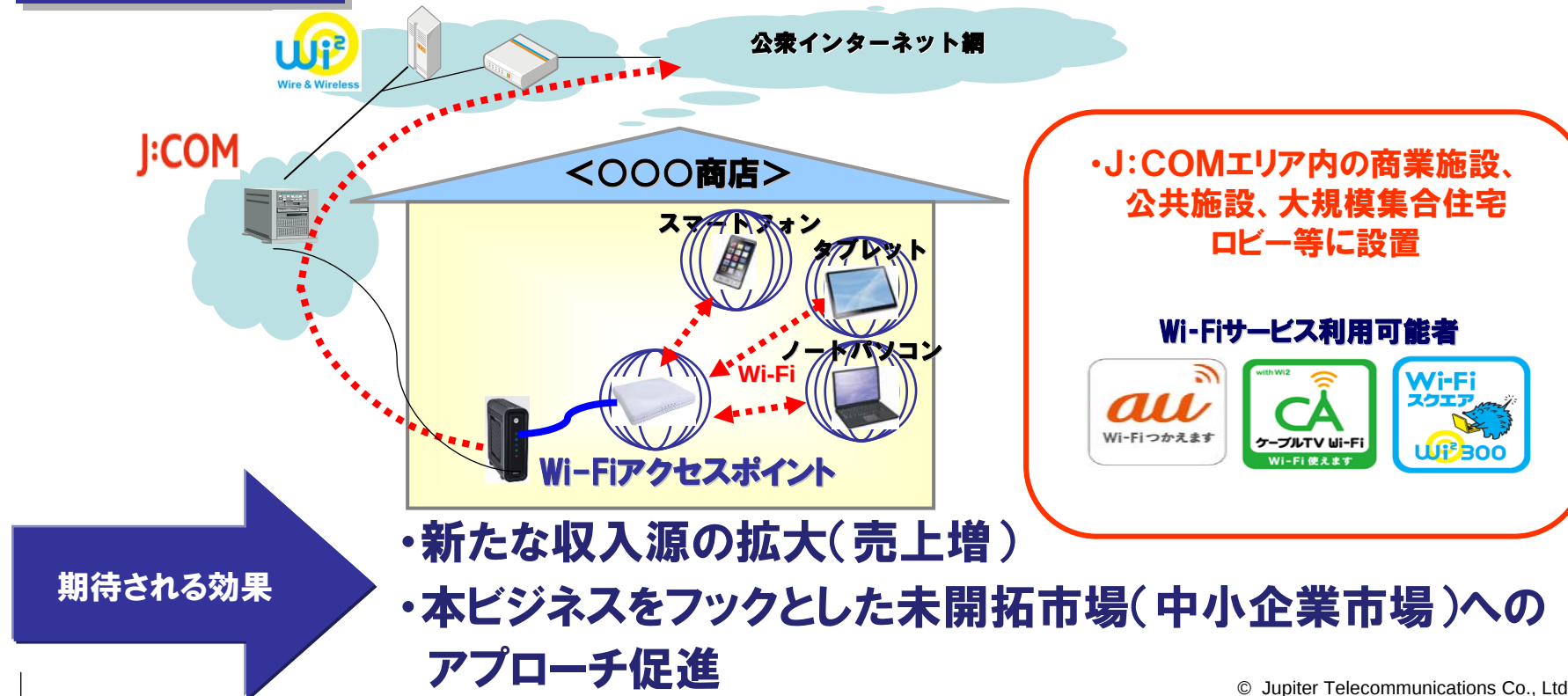
J:COM

概要

- KDDIが推進するCATV Wi-Fiプログラム^{*1}の一環として、当社がエリア内の商業施設等に、公衆無線LAN設備「Wi-Fiアクセスポイント」を構築
- 当社がネット回線や端末設置に関する営業、工事や運用・保守を行いWi2^{*2}より利用料を回収
- 設置先店舗等は、コスト負担なく施設の付加価値が向上

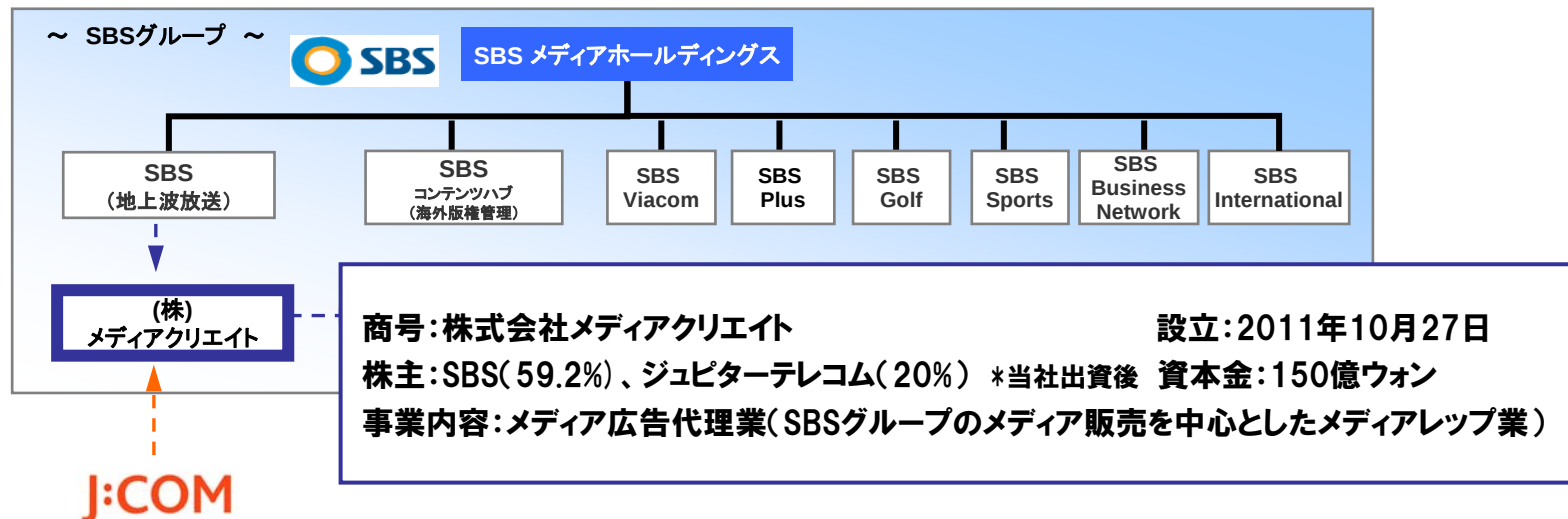
^{*1} KDDIとWi2が連携して、全国のCATV事業者向けに展開するWi-Fiプログラム

^{*2} KDDI関連会社の株式会社ワイヤ・アンド・ワイヤレス



2-3. 韓国SBSグループ企業との資本提携

韓国地上波放送局SBSのグループ企業である株式会社メディアクリエイトの一部株式(20%)を取得



日程

- 2012年7月20日株式譲渡契約締結
- 韓国公正取引委員会での審査及び、韓国放送通信委員会への報告を経て、2012年8月中に、株式取得完了予定

本件の 意義

SBSとの関係深化をはかり、以下の展開を推進する

- 韓国ドラマなどの人気コンテンツの調達強化
- K-POP関連コンテンツを軸としたイベント展開
- J:COM出資チャンネル/SBSグループチャンネルの相互協力

2-4. 話題作・人気コンテンツの投入

下期のコンテンツ・作品ラインナップ



『ヘルタースケルター』
(C)2012映画『ヘルタースケルター』制作委員会



『のぼうの城』
(C)2011 『のぼうの城』フィルムパートナーズ



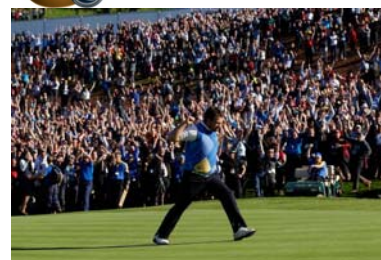
『夢売るふたり』
(C)2012 「夢売るふたり」製作委員会
配給: アスミックエース



『大奥〜永遠〜[右衛門佐・綱吉篇]』
(C)2012 男女逆転 『大奥〜永遠〜[右衛門佐・
綱吉篇]』製作委員会



「第99回 ツール・ド・フランス」
全21ステージ独占生中継
(C)Yuzuru SUNADA.



ライダーカップ2012 (C) Getty Images



「12/13 イングランド プレミアリーグ」
生中継中心に毎節5試合放送
Photo: アフロ

その他の主な番組

女性チャンネル♪



- ・「THE ドラマカンファレンス」(8月～)
- ・『美男料理<イケメンCooking>』(8月～)



- ・ハリーポッター1, 2, 3 (9月)
- ・英国王のスピーチ (10月)

2-5. 新規事業への取組み

J:COM Everywhereコンセプトに基づいたサービスを
第4四半期以降に順次開始予定”

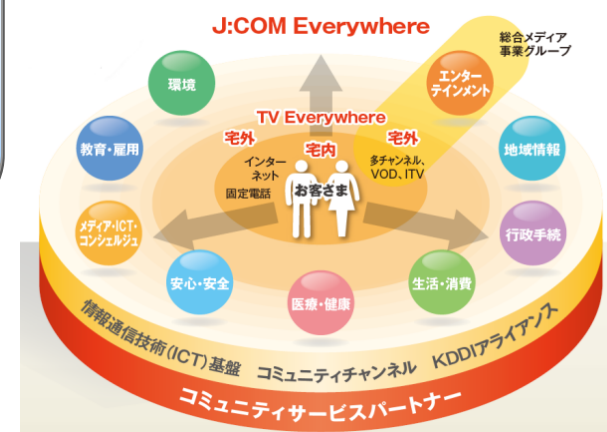
ホームネットワークサービス

- 10月の開始に向けサービスプランを設計中
- ワンストップメニューを充実
- スマホ、タブレット等周辺機器へのサポートを充実

生活支援サービス

- 関東、関西の一部にて、タブレットを活用した生活支援サービスのトライアル開始を検討中
- 買い物支援、家事代行など

J:COM Everywhere コンセプト



2-6. 次世代STBの開発

CATV業界標準準拠の高性能STBを開発中

- 従来のベンダー独自仕様ではなく、CATV業界が求める機能改善が可能な「業界標準の次世代STB」が必要
- 日本ケーブルラボの標準技術仕様化を全面的に協力
- 標準化に賛同したベンダーのSTB開発を積極的にサポート



- 来春リリース予定

TVサービスの魅力・価値向上

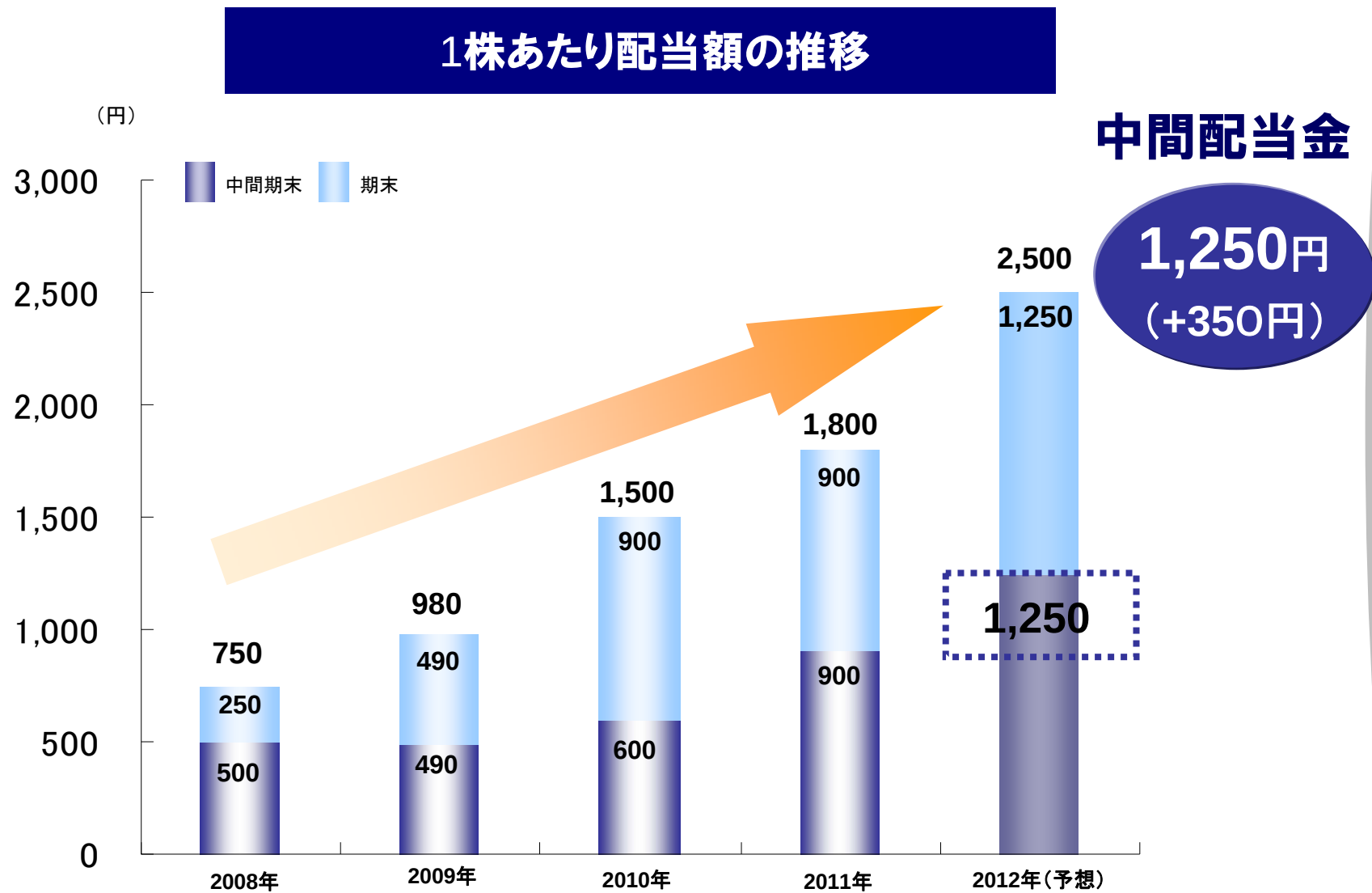
- 幅広いお客様層で快適な「ユーザビリティ」
- 観たいコンテンツに出会える「視聴促進機能」

+

スマートTV機能の実現

- スマホ／タブレットPCを含む、マルチデバイス連携
- NET連携アプリケーション

2-7. 中間配当金額



参考資料

- **主要オペレーション指標（旧定義ベース）**
- **第2四半期の業績解説**
- **ハードディスク内蔵型STB「HDR」 加入世帯推移**
- **160M超高速インターネット接続サービス 加入世帯推移**
- **バンドル化の推移**
- **長期契約率の推移**
- **チャンネル別視聴可能世帯数**

主要オペレーション指標(旧定義ベース)

	2011年6月末 (2011年1-6月平均)	2012年6月末 (2012年1-6月平均)	増減
加入世帯数			
ケーブルテレビ	277 万	289 万	4.4 %
高速インターネット接続	176 万	188 万	7.3 %
電話	209 万	236 万	13.2 %
RGU合計 *1	661 万	714 万	7.9 %
総加入世帯数	352 万	373 万	6.1 %
バンドル率 *2	1.88	1.91	0.03pts
平均月次解約率 (RGU当たり)	1.03%	0.97%	-0.06pts
ARPU *3	7,569	7,294	-275円

*1: RGU (Revenue generating unit)合計 = 提供サービス数の合計

*2: バンドル率 = 加入世帯当たり提供サービス

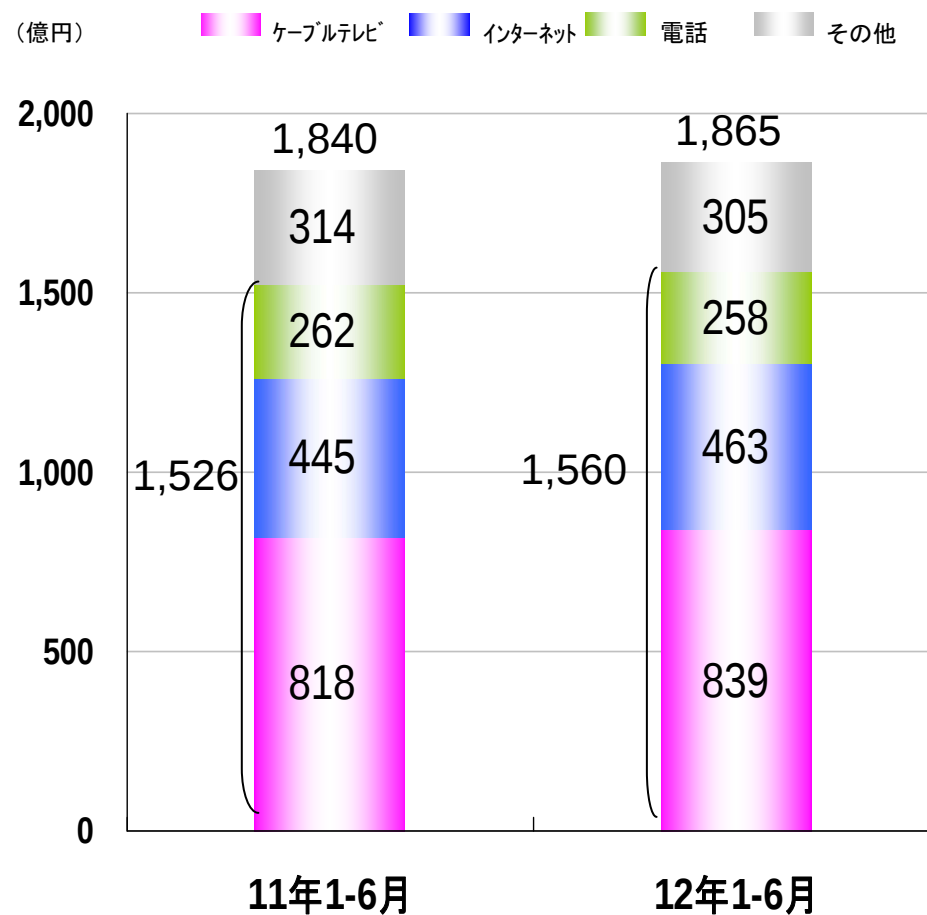
*3: ARPU = 加入世帯当たり月次収益

営業収益

J:COM

[米国会計基準]

1,865億円（+1.4%、+25億円）



主なポイント（前年同期比較）

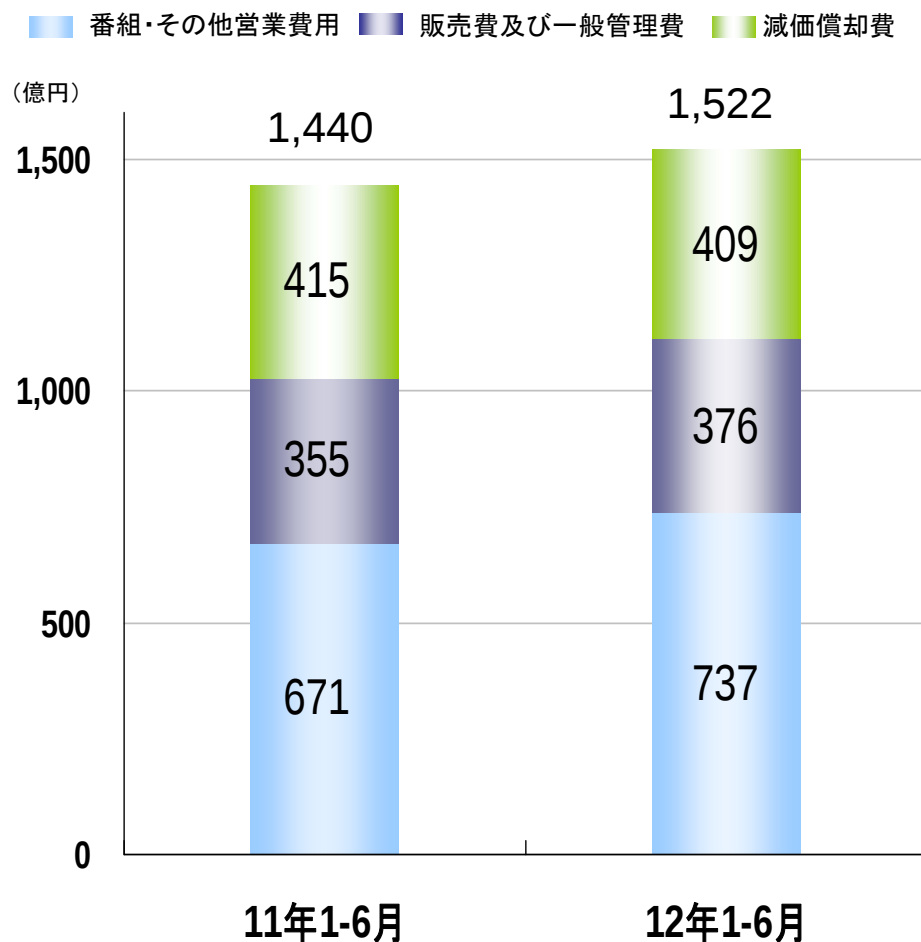
■ 利用料収入：1,560億円（前年同期比+2.2%）

- ・総加入世帯数・RGU数の増加
- ・VOD収入の増加（My style含む）
- ・ブルーレイHDRなど付加価値サービスの利用が増加
- ・買収による影響額の増加

■ その他収入：305億円（前年同期比-2.9%）

- ・アナログ電障収入の減少
- ・買収による影響額の増加

1,522億円（+5.7%、+82億円）



主なポイント（前年同期比較）

- 番組・その他営業費用：737億円**
 （前年同期比+9.9%、+66億円）
 - ・番組関連費用の増加
 - ・買収による影響額の増加
- 販売費及び一般管理費：376億円**
 （前年同期比+6.0%、+21億円）
 - ・広告宣伝関連費用、人件費の増加
 - ・買収による影響額の増加
- 減価償却費：409億円**
 （前年同期比-1.3%、-5億円）
 - ・一部リース資産の償却満了に伴い減少

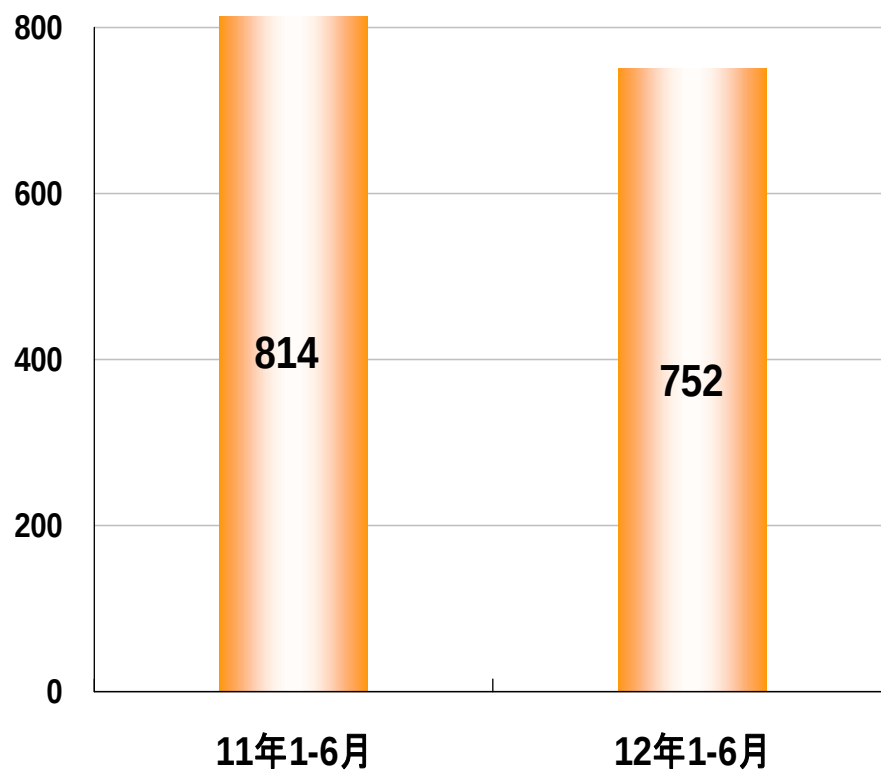
EBITDA*及び営業利益

J:COM

[米国会計基準]

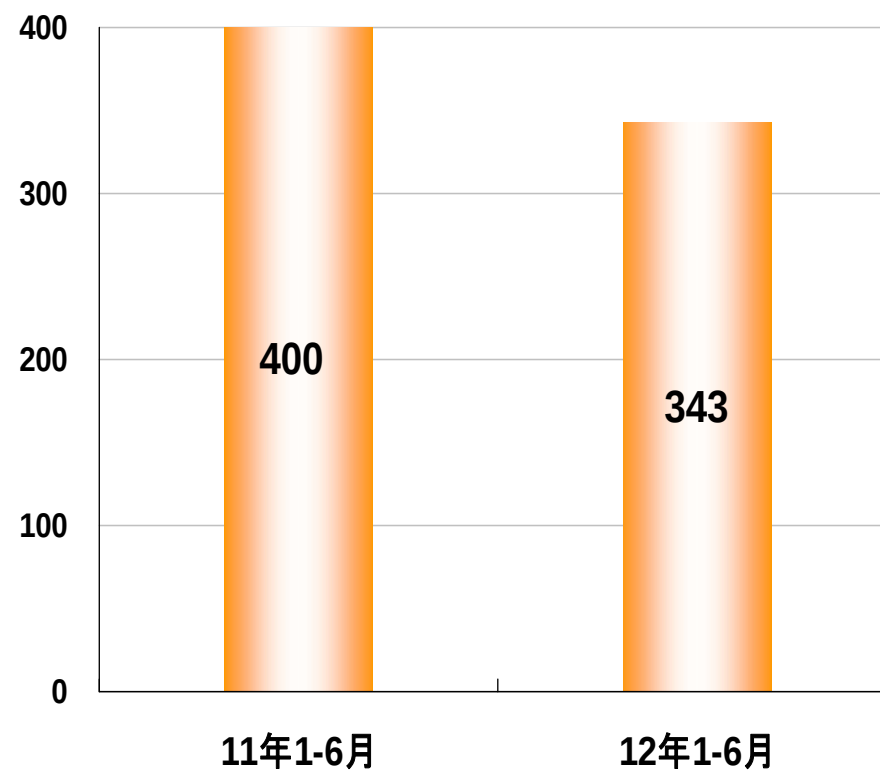
EBITDA*

(億円) **- 7.7%(-62億円)**



営業利益

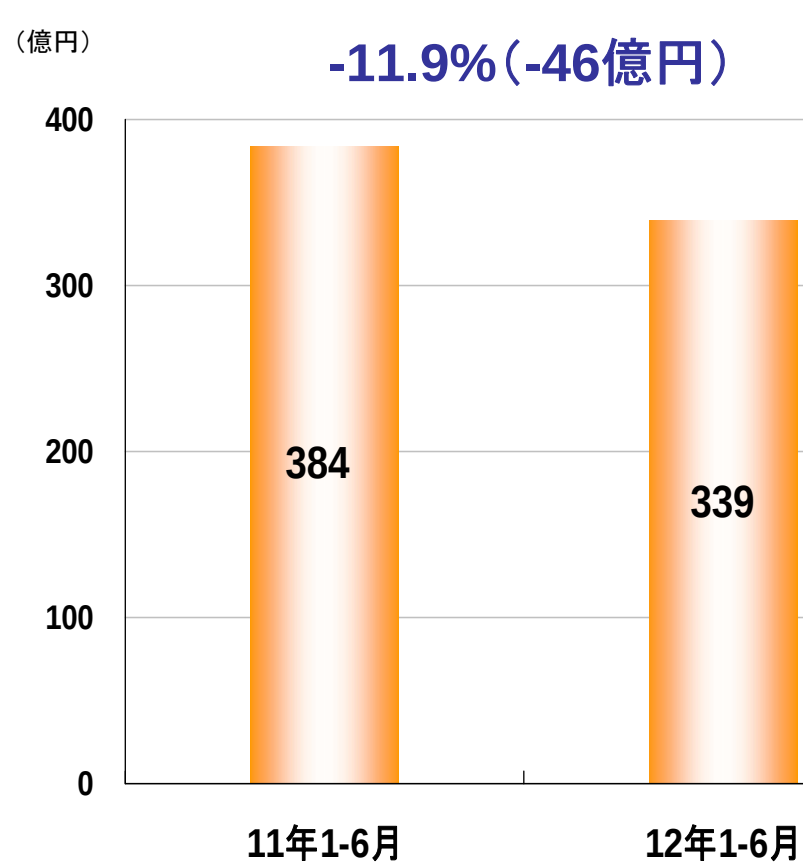
(億円) **-14.2%(-57億円)**



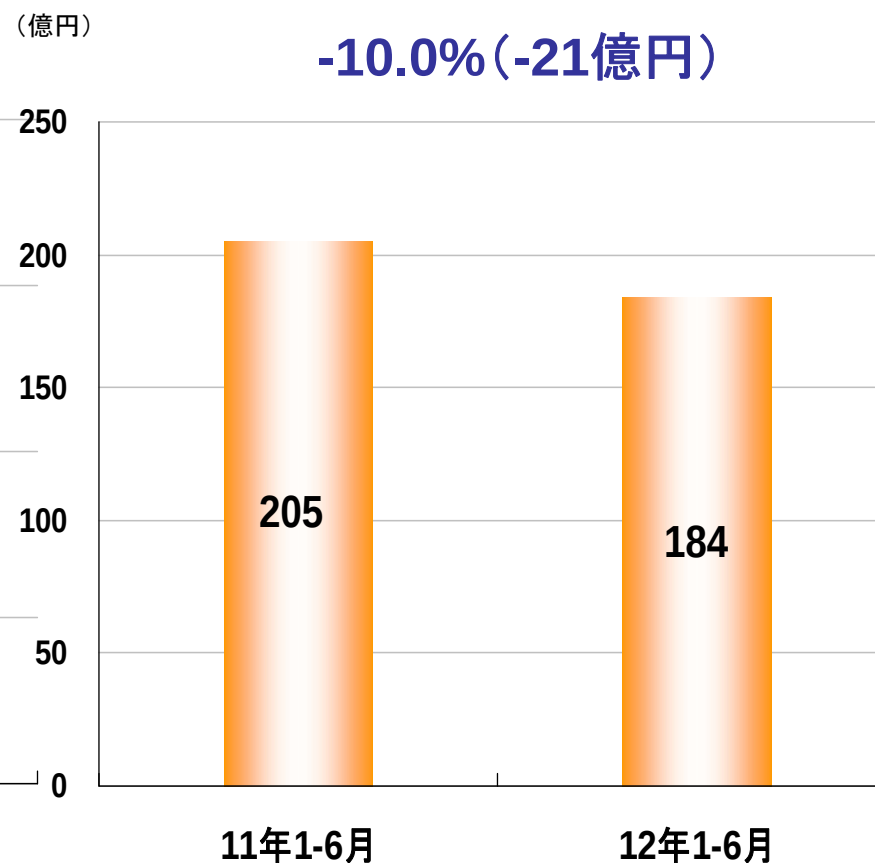
*EBITDA=(営業収益)-(番組・その他営業費用)-(販売費および一般管理費)

税金等控除前利益、当社株主帰属四半期純利益

税金等控除前利益



当社株主帰属四半期純利益

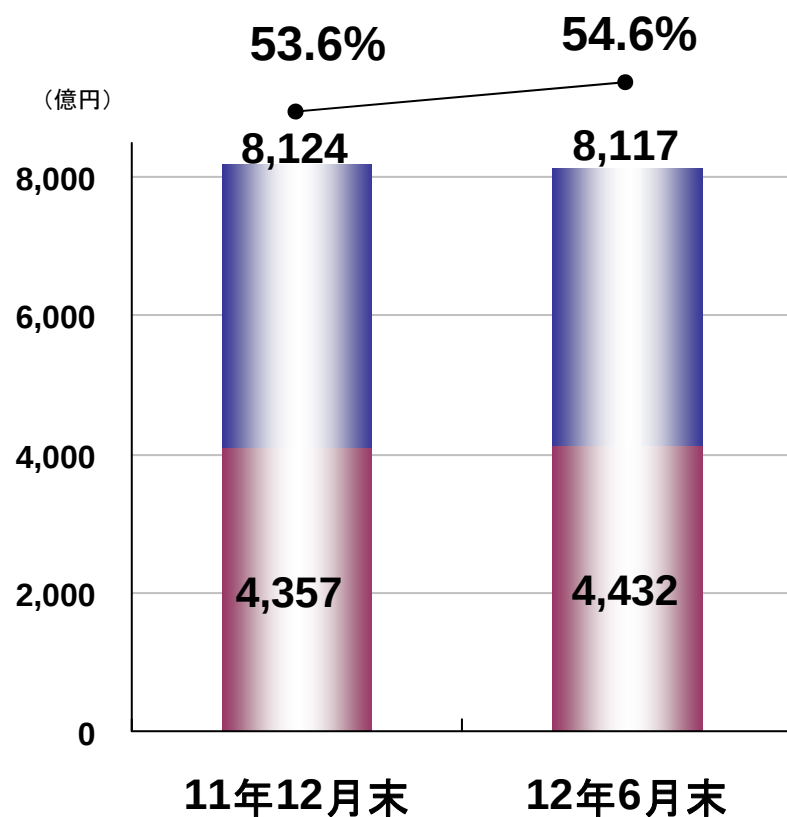


主要財務比率

J:COM

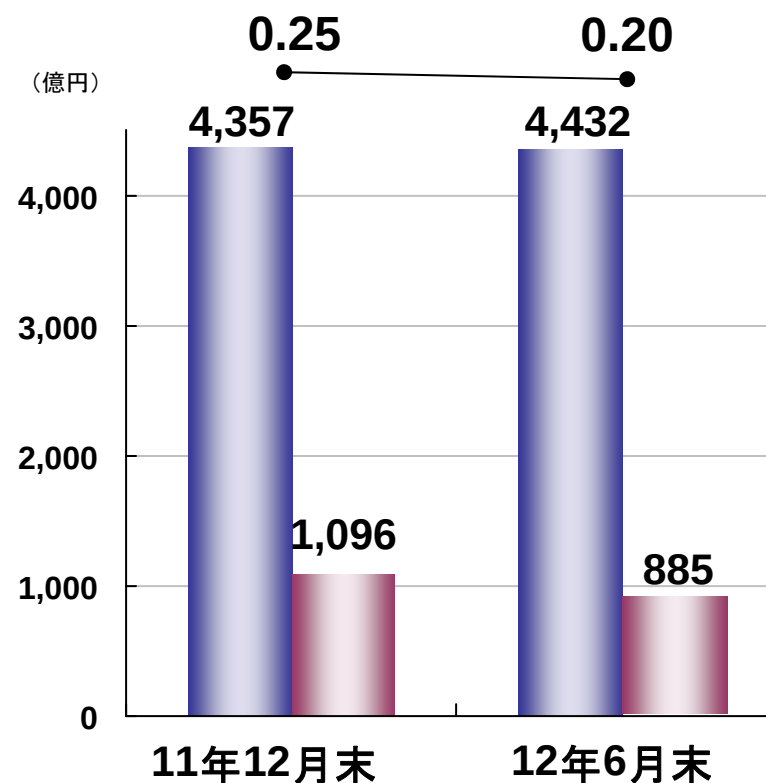
[米国会計基準]

当社株主帰属資本比率



負債及び資本合計
当社株主帰属資本

D/Eレシオ



当社株主帰属資本
純有利子負債

連結キャッシュ・フロー

J:COM

[米国会計基準]

(億円)

	11年1-6月	12年1-6月	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	579	594	15
投資活動による キャッシュ・フロー	-247	-220	27
財務活動による キャッシュ・フロー	-184	-262	-78
フリー・ キャッシュ・フロー*	263	329	66

主な増減要因

税金支払額の減少 +78億円
EBITDAの減少 -62億円

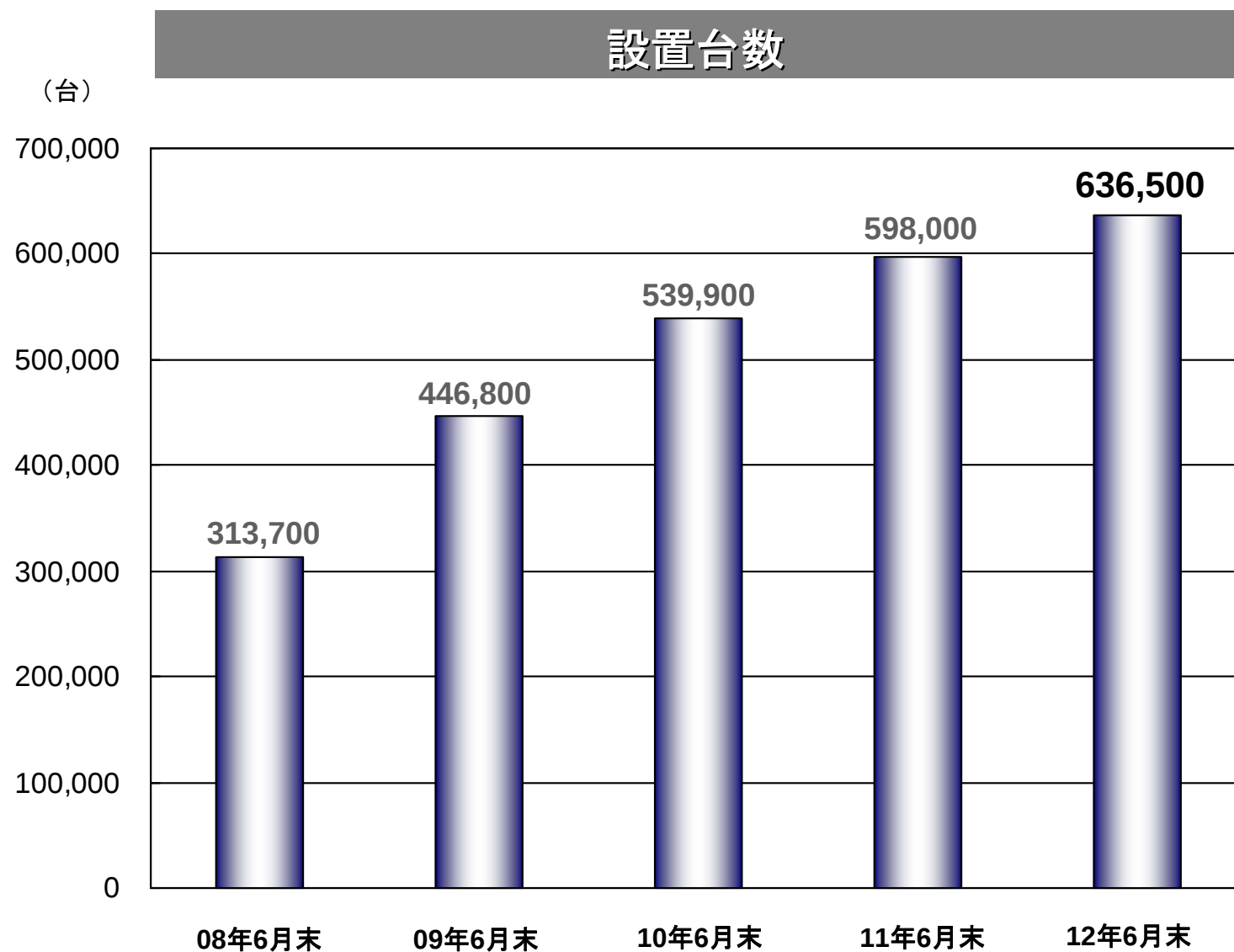
資本的支出 +27億円

自己株式の取得による支出 -50億円
借入金の返済 -38億円
キャピタルリース元本返済 +12億円

*フリー・キャッシュ・フロー = (営業活動によるキャッシュ・フロー) - (設備投資)

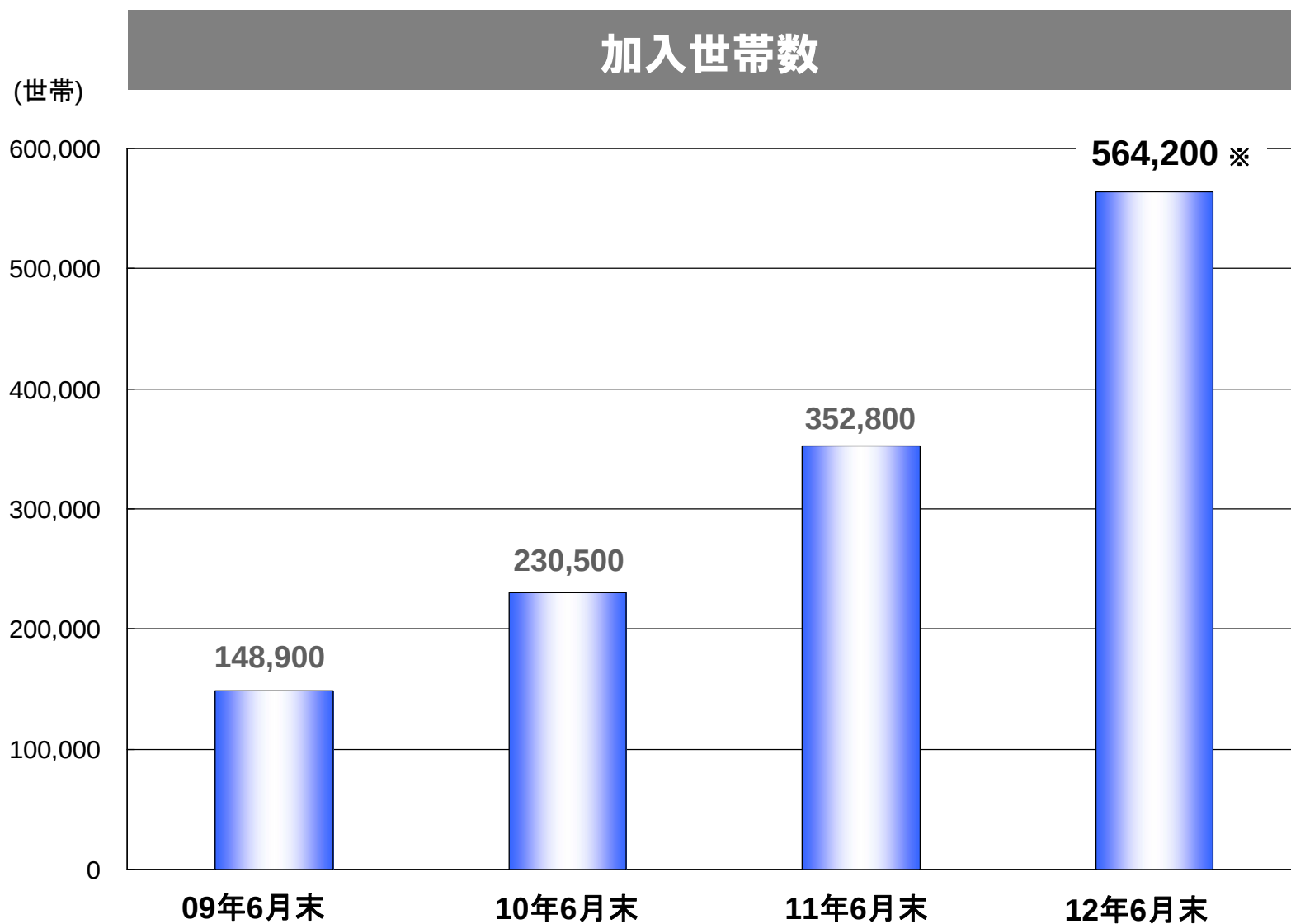
ハードディスク内蔵型STB「HDR」

J:COM



160メガ 超高速インターネット接続サービス

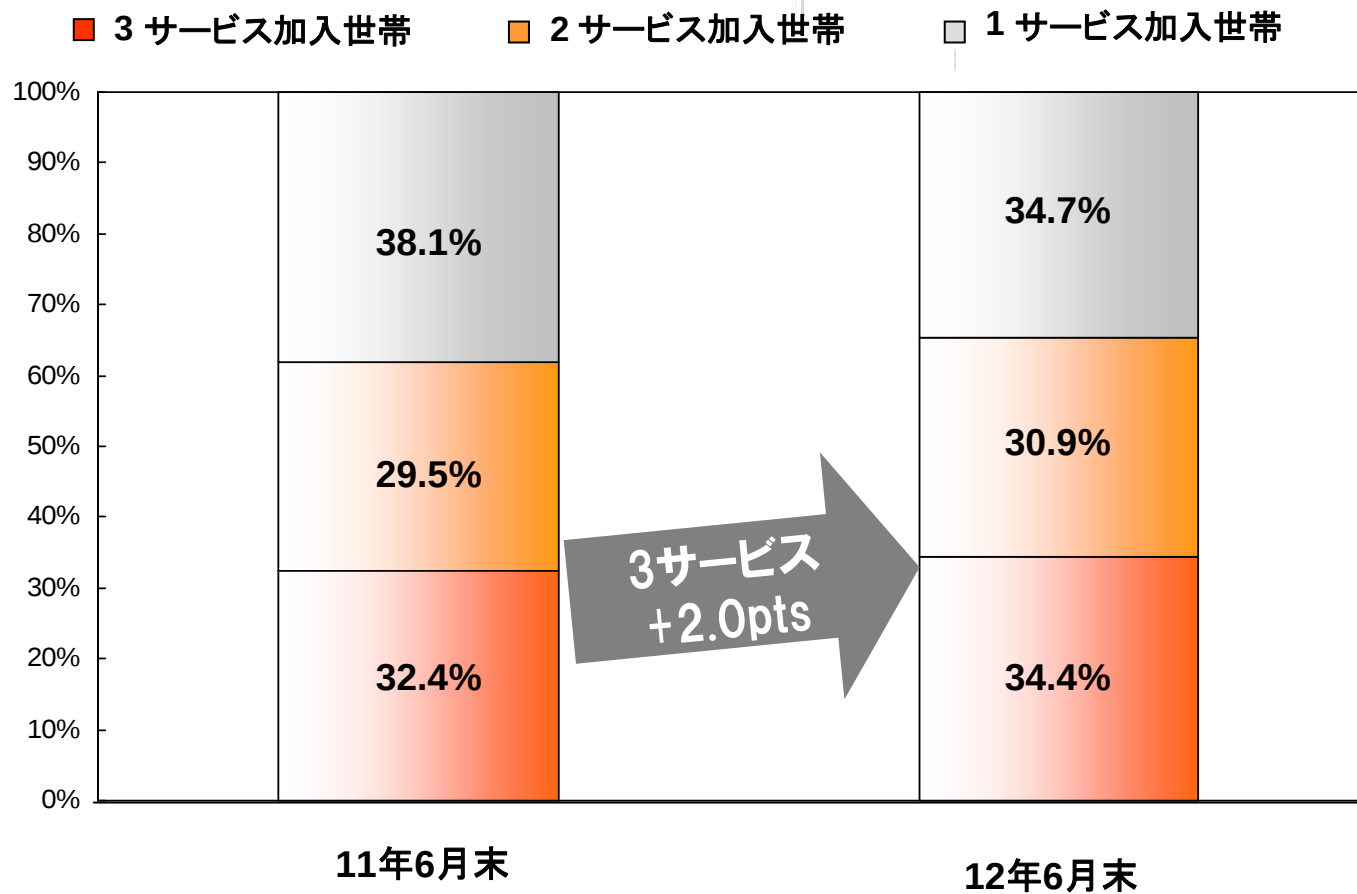
J:COM



*2012年6月末から新定義ベースでの数値で算出しております。

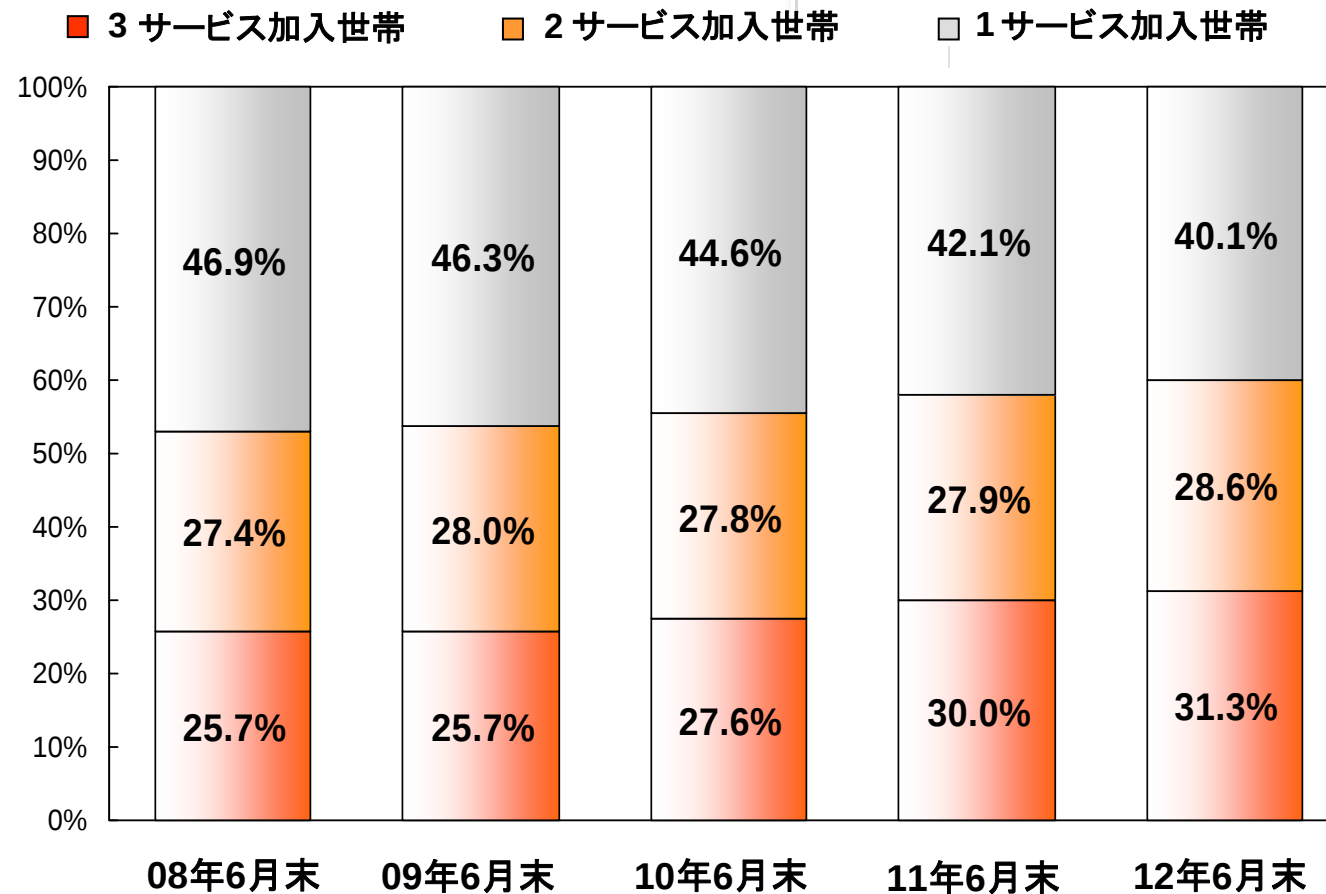
バンドル化の推移(新定義ベース)

加入サービス数別の世帯構成比



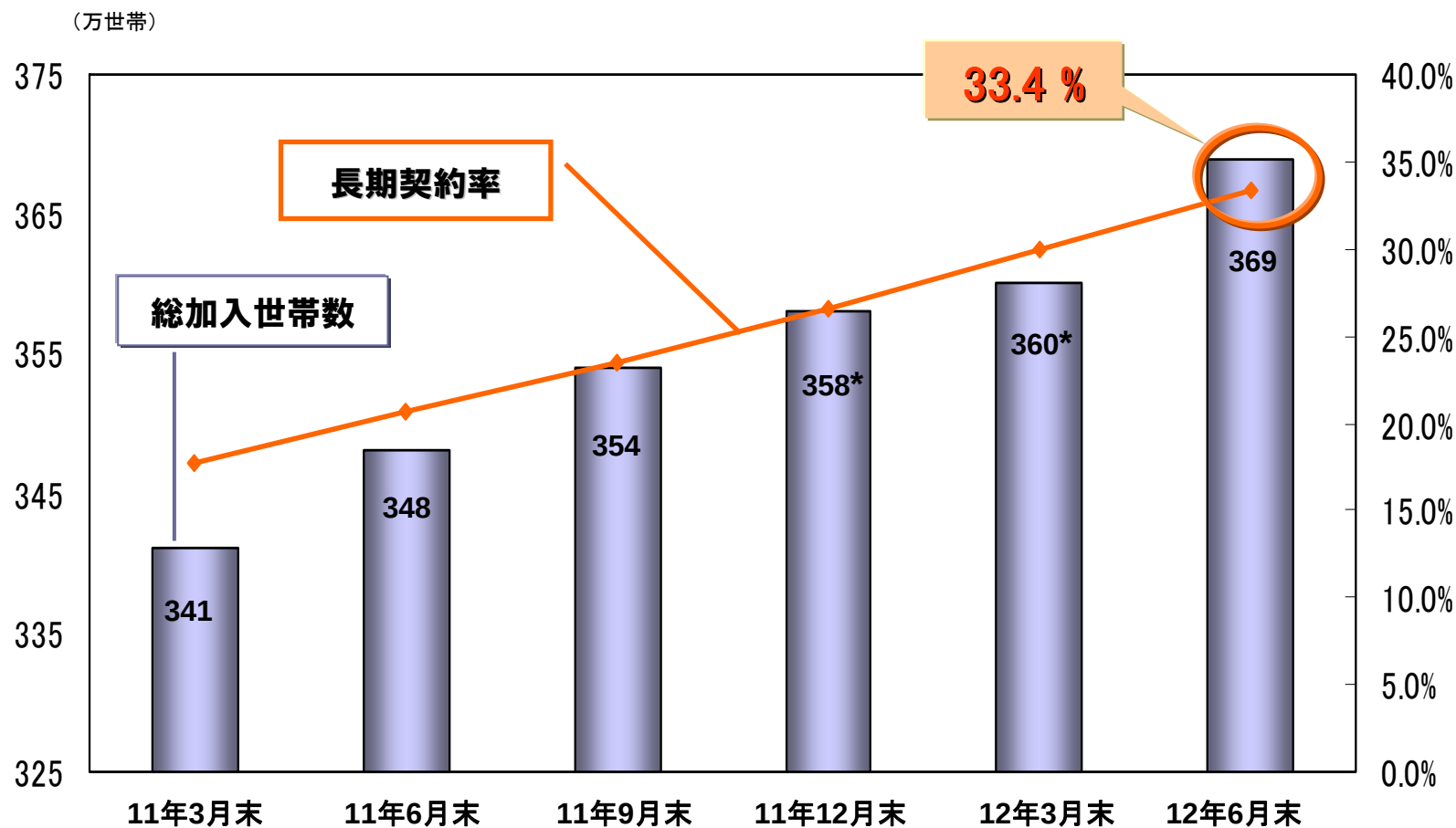
バンドル化の推移(旧定義ベース)

加入サービス数別の世帯構成比



長期契約率の推移(新定義ベース)

長期契約サービス加入世帯数の推移



*長期契約サービスを提供していない局の総加入世帯数を除いております。

チャンネル別 視聴可能世帯数

J:COM

(2012年5月末現在)

チャンネル名/会社名	区分 出資比率	視聴可能 世帯数	チャンネル名/会社名	区分 出資比率	視聴可能 世帯数
ベーシックチャンネル					
 ムービープラス ジューターエンテインメント(株)	連結 100%	743万世帯 (747万世帯)	 AXN (株)AXNジャパン	持分法 35%	752万世帯 (752万世帯)
 女性チャンネル♪ LaLa TV ジューターエンテインメント(株)		676万世帯 (677万世帯)	 キッズステーション (株)キッズステーション	その他 15%	868万世帯 (867万世帯)
 大人の趣味と生活向上◆アクトオンTV (株)ジュータービジュアルコミュニケーションズ	連結 90.00%	351万世帯 (397万世帯)	 日本映画専門チャンネル 日本映画衛星放送(株)	その他 9.99%	766万世帯 (762万世帯)
 ゴルフネットワーク ジューターゴルフネットワーク(株)	連結 89.41%	800万世帯 (725万世帯)	 時代劇専門チャンネル 日本映画衛星放送(株)		821万世帯 (821万世帯)
 J sports 1, J sports 2, J sports 3, J sports 4 * (株)ジ・エイ・スポーツ	連結 80.5%	751万世帯 (741万世帯)	 日経CNBC (株)日経CNBC	その他 9.75%	752万世帯 (756万世帯)
 チャンネル銀河 チャンネル銀河(株)	連結 76%	419万世帯 (412万世帯)	オプションチャンネル		
 ディスカバリーチャンネル ディスカバリー・ジャパン(株)	持分法 50%	698万世帯 (701万世帯)	 アニメシアターX (AT-X) (株)イー・ティー・エックス	その他 12.28%	15万世帯 (15万世帯)
 アニマルプラネット ディスカバリー・ジャパン(株)	持分法 50%	599万世帯 (612万世帯)			

出所:各社

()内は2012年2月末現在の視聴可能世帯数

* J sports 4はJ:COMではオプションチャンネル。